

2021/2/15

柏の景気情報(令和3年1月分)

柏 商 工 会 議 所

(本件担当) 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
T E L : 04-7162-3305
F A X : 04-7162-3323
U R L : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（令和3年1月分）

○ 調査期間：令和3年1月26日～令和3年2月5日

○ 調査対象：柏市内130事業所及び組合にヒアリング

<産業別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	130	91	70.0%
建設	32	21	65.6%
製造	35	25	71.4%
卸・小売	38	28	73.7%
サービス	25	17	68.0%

○ 調査方法と調査表：下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1増加他の回答割合 - 3減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【令和3年1月の業況についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲54.9(前月水準▲46.7)となり、マイナス幅が8.2ポイント拡大した。

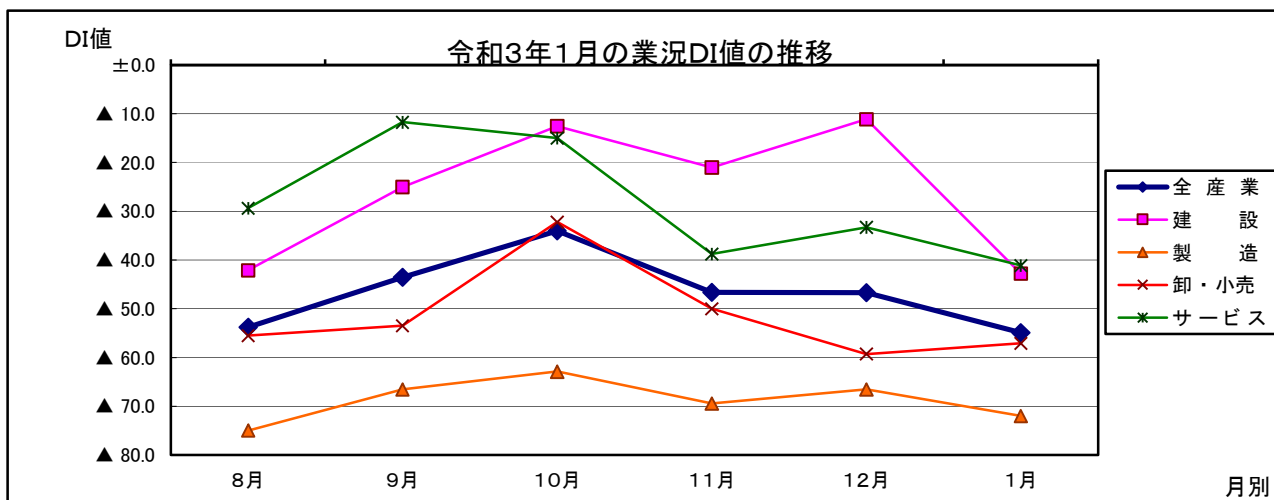
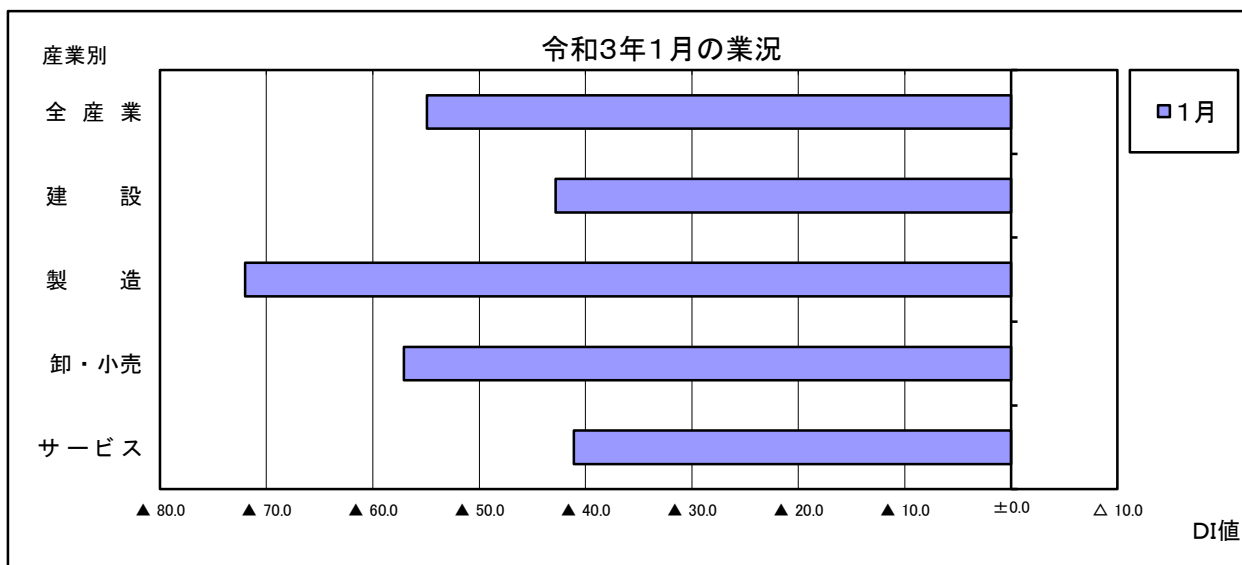
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲57.1(同▲59.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲42.8(同▲11.1)、サービス業▲41.1(同▲33.3)、製造業▲72.0(同▲66.6)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲37.3(前月水準▲32.6)となり、マイナス幅が4.7ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業▲11.7(同▲22.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲52.0(同▲29.1)、建設業▲14.2(同▲5.5)、卸小売業▲57.1(同▲56.2)である。

令和3年1月業況DI値(前年同月比)の推移

	令和2年 8月	9月	10月	11月	12月	令和3年 1月	先行き見通し 2月～4月(1月～3月)
全産業	▲53.8	▲43.5	▲34.0	▲46.6	▲46.7	▲54.9	▲37.3(▲32.6)
建設	▲42.1	▲25.0	▲12.5	▲21.0	▲11.1	▲42.8	▲14.2(▲5.5)
製造	▲75.0	▲66.6	▲62.9	▲69.5	▲66.6	▲72.0	▲52.0(▲29.1)
卸・小売	▲55.5	▲53.5	▲32.2	▲50.0	▲59.3	▲57.1	▲57.1(▲56.2)
サービス	▲29.4	▲11.7	▲15.0	▲38.8	▲33.3	▲41.1	▲11.7(▲22.2)



【令和3年1月の売上についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲45.0(前月水準▲42.3)となり、マイナス幅が2.7ポイント拡大した。

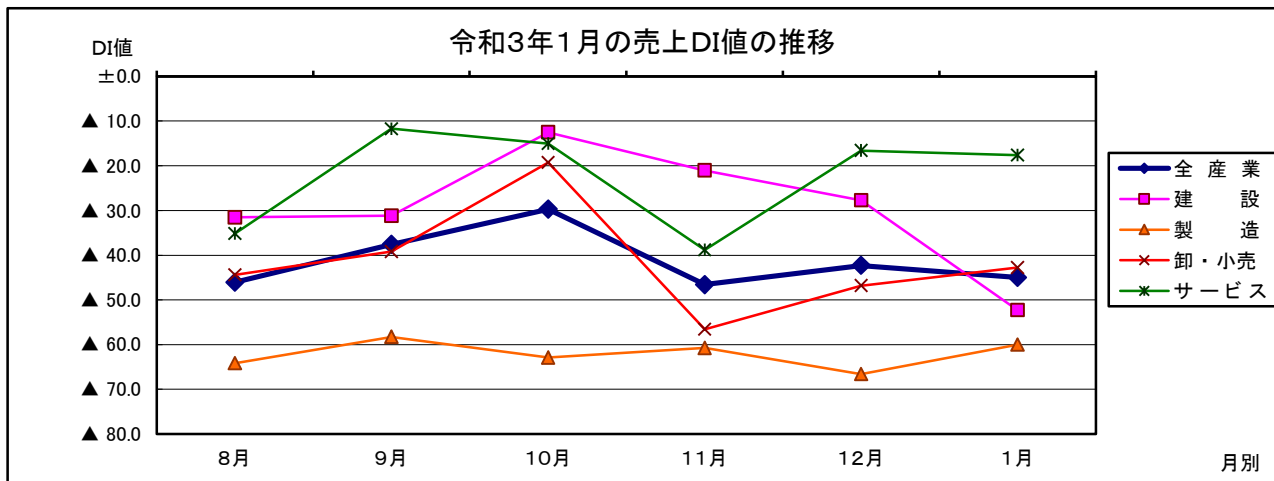
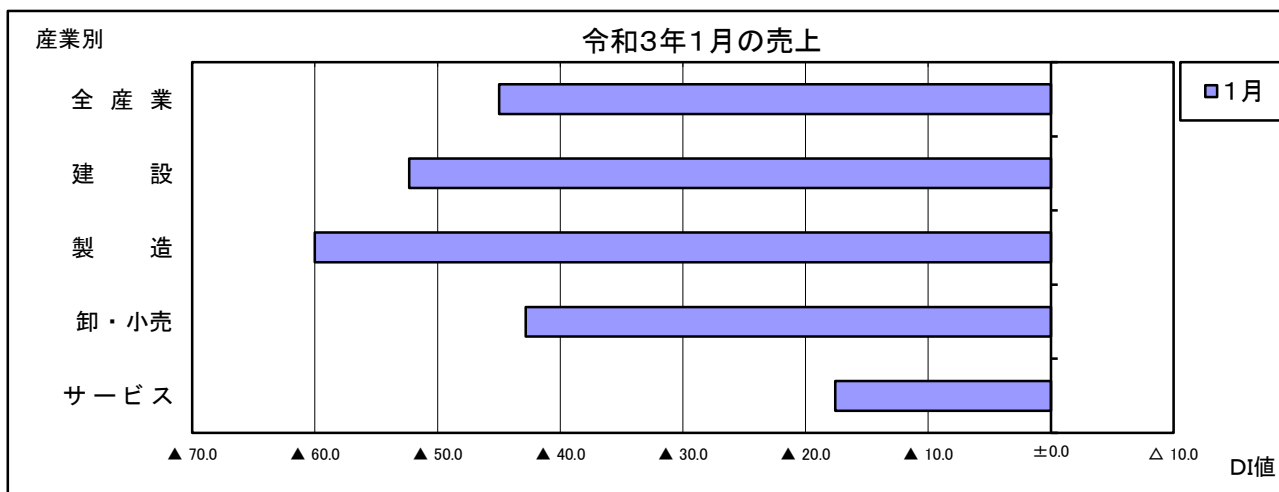
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲60.0(同▲66.6)、卸小売業▲42.8(同▲46.8)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲52.3(同▲27.7)、サービス業▲17.6(同▲16.6)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲38.4(前月水準▲30.4)となり、マイナス幅が8.0ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、サービス業△5.8(同▲5.5)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲53.5(同▲59.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲48.0(同▲20.8)、建設業▲42.8(同▲16.6)である。

令和3年1月の売上DI値(前年同月比)の推移

	令和2年 8月	9月	10月	11月	12月	令和3年 1月	先行き見通し 2月～4月(1月～3月)
全産業	▲46.1	▲37.6	▲29.7	▲46.6	▲42.3	▲45.0	▲38.4(▲30.4)
建設	▲31.5	▲31.2	▲12.5	▲21.0	▲27.7	▲52.3	▲42.8(▲16.6)
製造	▲64.2	▲58.3	▲62.9	▲60.8	▲66.6	▲60.0	▲48.0(▲20.8)
卸・小売	▲44.4	▲39.2	▲19.3	▲56.6	▲46.8	▲42.8	▲53.5(▲59.3)
サービス	▲35.2	▲11.7	▲15.0	▲38.8	▲16.6	▲17.6	△5.8(▲5.5)



【令和3年1月の採算についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲45.0(前月水準▲42.3)となり、マイナス幅が2.7ポイント拡大した。

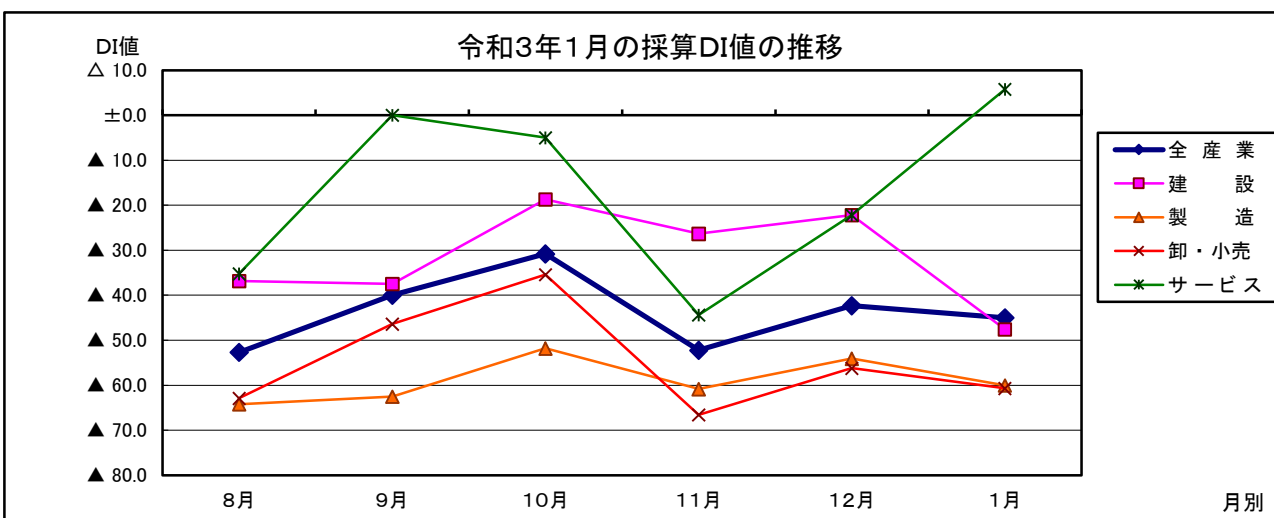
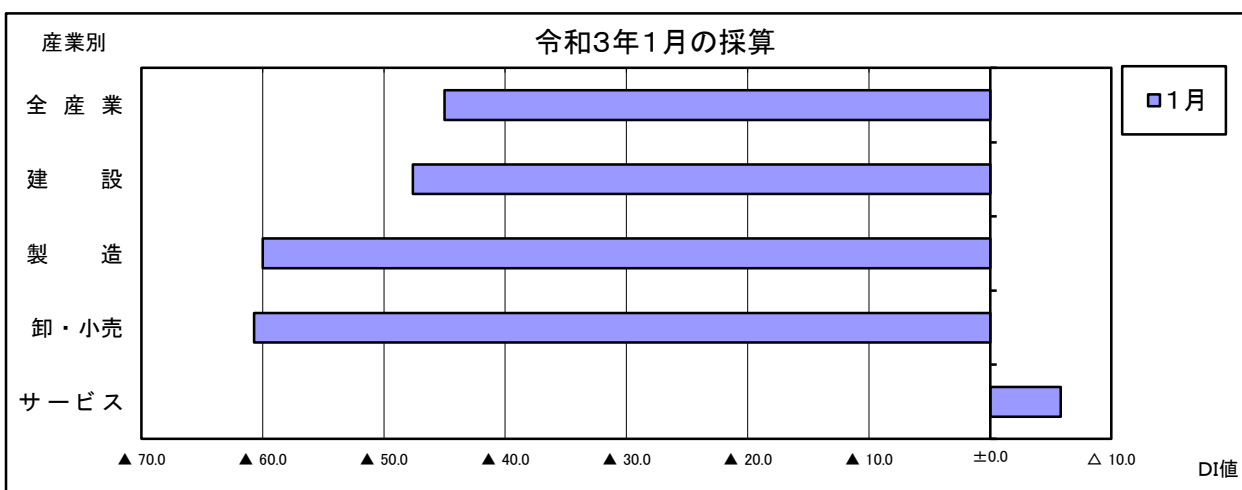
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業△5.8(同▲22.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲47.6(同▲22.2)、製造業▲60.0(同▲54.1)、卸小売業▲60.7(同▲56.2)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲36.2(前月水準▲32.6)であり、マイナス幅が3.6ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲46.4(同▲59.3)、サービス業±0.0(同▲5.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲38.0(同▲16.6)、製造業▲48.0(同▲29.1)である。

令和3年1月の採算DI値(前年同月比)の推移

	令和2年 8月	9月	10月	11月	12月	令和3年 1月	先行き見通し 2月～4月(1月～3月)
全産業	▲52.7	▲40.0	▲30.8	▲52.2	▲42.3	▲45.0	▲36.2(▲32.6)
建設	▲36.8	▲37.5	▲18.7	▲26.3	▲22.2	▲47.6	▲38.0(▲16.6)
製造	▲64.2	▲62.5	▲51.8	▲60.8	▲54.1	▲60.0	▲48.0(▲29.1)
卸・小売	▲62.9	▲46.4	▲35.4	▲66.6	▲56.2	▲60.7	▲46.4(▲59.3)
サービス	▲35.2	±0.0	▲5.0	▲44.4	▲22.2	△5.8	±0.0(▲5.5)



【令和3年1月の仕入単価についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲20.8(前月水準▲14.1)となり、マイナス幅が6.7ポイント拡大した。

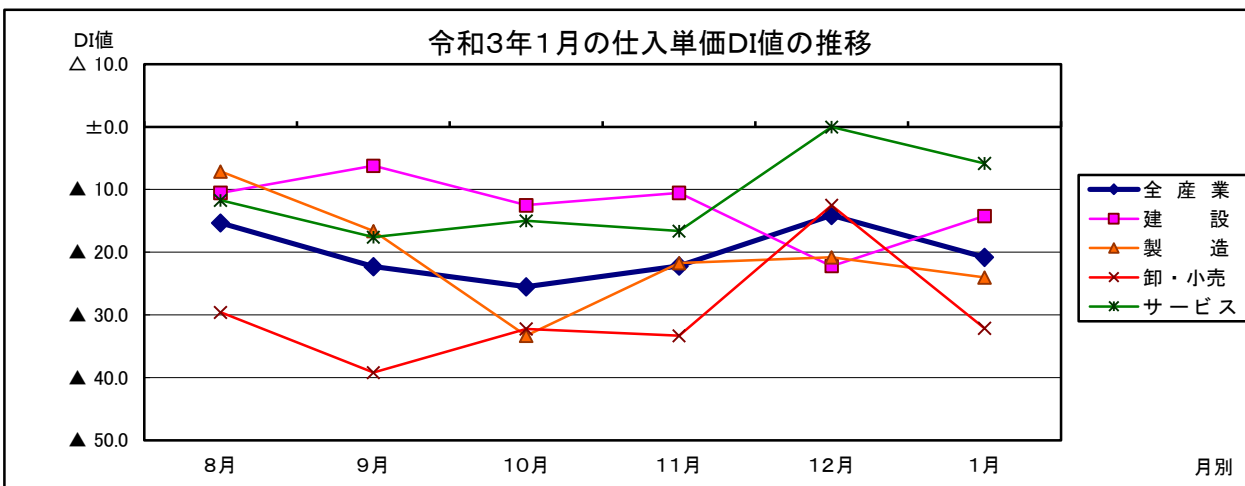
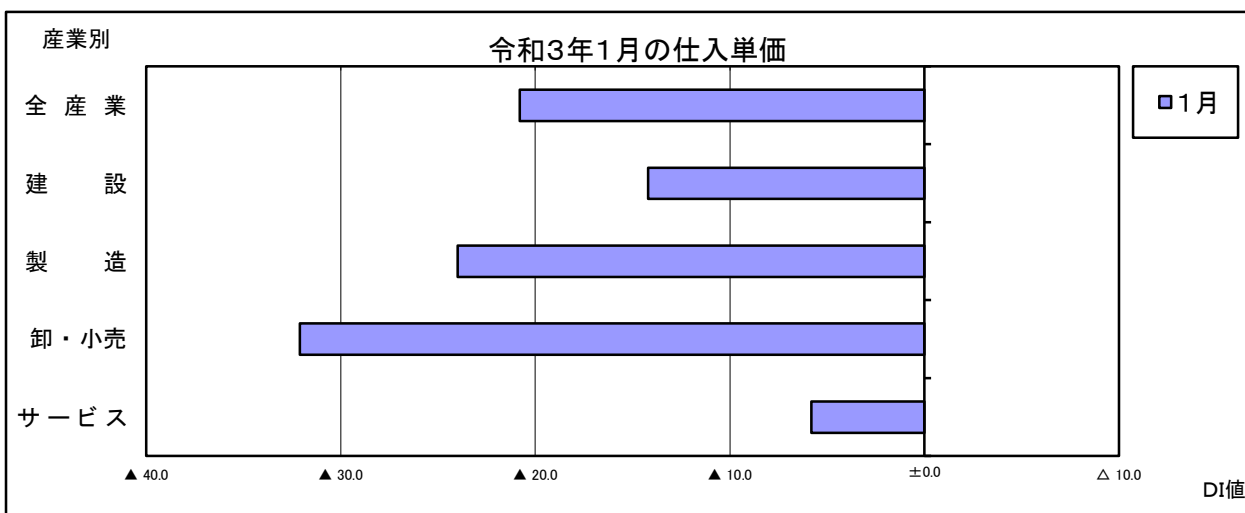
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲14.2(同▲22.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲32.1(同▲12.5)、サービス業▲5.8(同±0.0)、製造業▲24.0(同▲20.8)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲19.7(前月水準▲9.7)となり、マイナス幅が10.0ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業±0.0(同△5.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲32.1(同▲18.7)、製造業▲20.0(同▲8.3)、建設業▲19.0(同▲11.1)である。

令和3年1月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	令和2年 8月	9月	10月	11月	12月	1月	先行き見通し 2月～4月(1月～3月)
全産業	▲15.3	▲22.3	▲25.5	▲22.2	▲14.1	▲20.8	▲19.7(▲9.7)
建設	▲10.5	▲6.2	▲12.5	▲10.5	▲22.2	▲14.2	▲19.0(▲11.1)
製造	▲7.1	▲16.6	▲33.3	▲21.7	▲20.8	▲24.0	▲20.0(▲8.3)
卸・小売	▲29.6	▲39.2	▲32.2	▲33.3	▲12.5	▲32.1	▲32.1(▲18.7)
サービス	▲11.7	▲17.6	▲15.0	▲16.6	±0.0	▲5.8	±0.0(△5.5)



【令和3年1月の従業員についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△2.1(前月水準△9.7)となり、プラス幅が7.6ポイント縮小した。

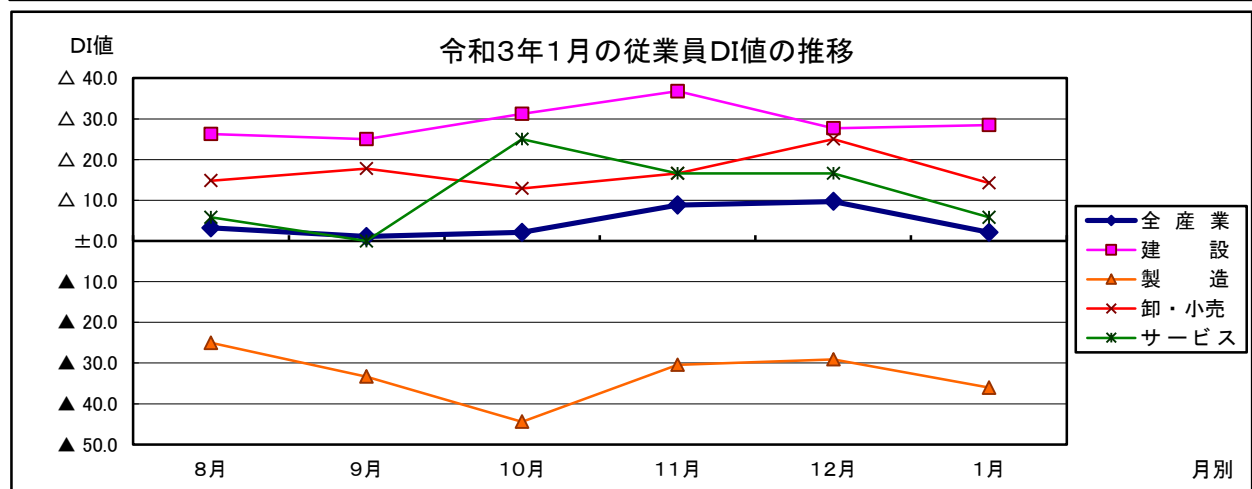
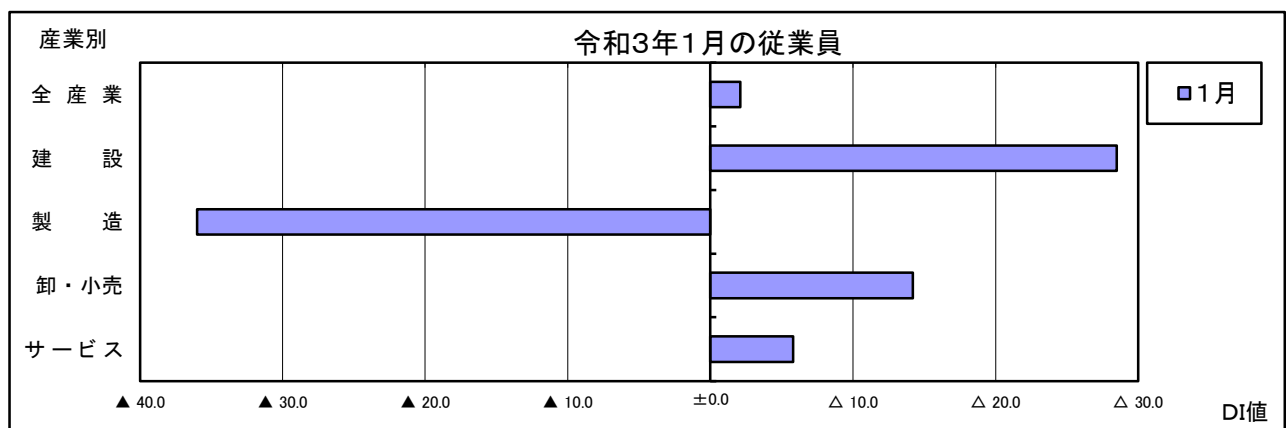
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、建設業△28.5(同△27.7)である。プラス幅が縮小した業種は、卸小売業△14.2(同△25.0)、サービス業△5.8(同△16.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲36.0(同▲29.1)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、△1.0(前月水準△4.3)となり、プラス幅が3.3ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△11.7(同△11.1)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲32.0(同▲37.5)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業△7.1(同△18.7)、建設業△23.8(同△27.7)である。

令和3年1月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	令和2年 8月	9月	10月	11月	12月	令和3年 1月	先行き見通し 2月～4月(1月～3月)
全産業	△3.2	△1.1	△2.1	△8.8	△9.7	△2.1	△1.0(△4.3)
建設	△26.3	△25.0	△31.2	△36.8	△27.7	△28.5	△23.8(△27.7)
製造	▲25.0	▲33.3	▲44.4	▲30.4	▲29.1	▲36.0	▲32.0(▲37.5)
卸・小売	△14.8	△17.8	△12.9	△16.6	△25.0	△14.2	△7.1(△18.7)
サービス	△5.8	±0.0	△25.0	△16.6	△16.6	△5.8	△11.7(△11.1)



【令和3年1月の資金繰りについての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲24. 1(前月水準▲16. 3)となり、マイナス幅が7. 8ポイント拡大した。

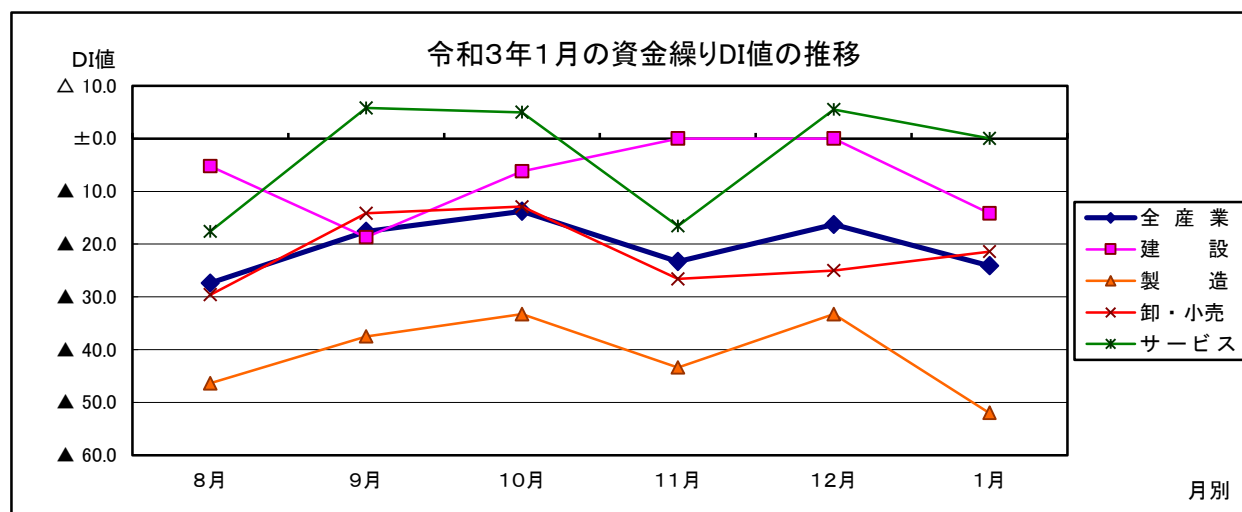
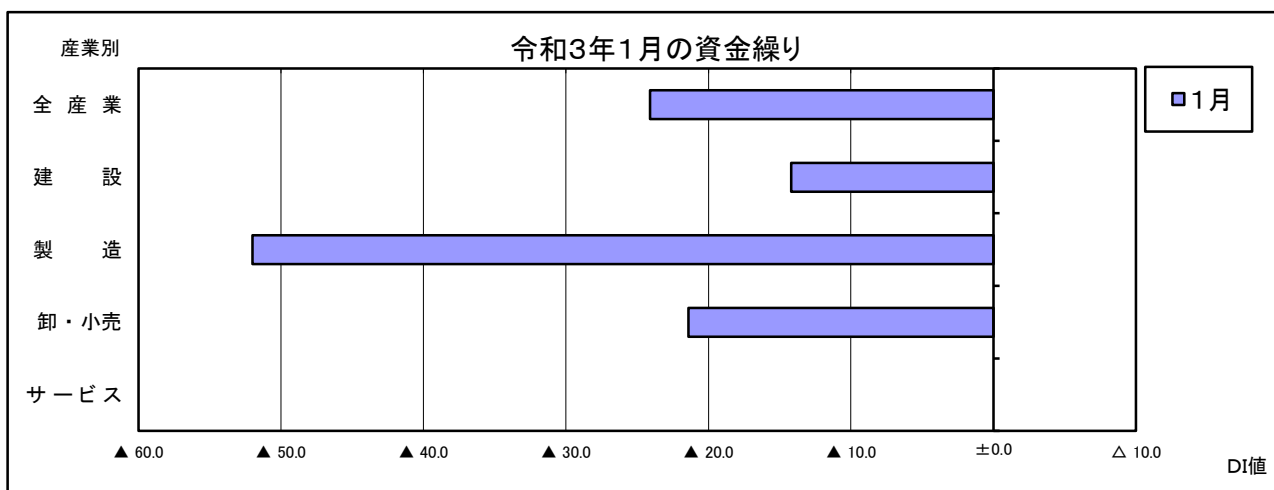
業種別では、前月水準と比べてマイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲21. 4(同▲25. 0)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業±0. 0(同△5. 5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲52. 0(同▲33. 3)、建設業▲14. 2(同±0. 0)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲25. 2(前月水準▲23. 9)となり、マイナス幅が1. 3ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲36. 0(同▲33. 3)、建設業▲19. 0(同▲16. 6)、サービス業▲11. 7(同▲11. 1)、卸小売業▲28. 5(同▲28. 1)である。

令和3年1月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	令和2年 8月	9月	10月	11月	12月	令和3年 1月	先行き見通し 2月～4月(1月～3月)
全 産 業	▲ 27.4	▲ 17.6	▲ 13.8	▲ 23.3	▲ 16.3	▲ 24.1	▲ 25.2 (▲ 23.9)
建 設	▲ 5.2	▲ 18.7	▲ 6.2	±0.0	±0.0	▲ 14.2	▲ 19.0 (▲ 16.6)
製 造	▲ 46.4	▲ 37.5	▲ 33.3	▲ 43.4	▲ 33.3	▲ 52.0	▲ 36.0 (▲ 33.3)
卸・小売	▲ 29.6	▲ 14.2	▲ 12.9	▲ 26.6	▲ 25.0	▲ 21.4	▲ 28.5 (▲ 28.1)
サ ー ビ ス	▲ 17.6	△ 5.8	△ 5.0	▲ 16.6	△ 5.5	±0.0	▲ 11.7 (▲ 11.1)



【令和3年1月の調査結果のポイント】

《全業種のDI値は2か月連続で悪化。緊急事態宣言期間延長により厳しい状況が続く見通し》

1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲54.9(前月水準▲46.7)となり、マイナス幅が8.2ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲57.1(同▲59.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲42.8(同▲11.1)、サービス業▲41.1(同▲33.3)、製造業▲72.0(同▲66.6)である。

緊急事態宣言の再発出により、全産業DIは悪化。巣ごもり需要に支えられ食料品の好調は続いているが、外出自粛の要請、飲食店の時短営業等により、商業施設は来店客数減少、業務用酒類出荷数は激減とのコメントが寄せられた。また、大きくDI値を下げた建設業から室内リフォーム工事の減少、民間の工事発注数の減少について、DI値が最も低い製造業から原材料値上げによる利益減少、人手不足等のコメントが寄せられた。

先行きは▲37.3(今月比+17.6)であるが、緊急事態宣言が延長され、厳しい状況が続く見通しである。

【建設業】からは、「畳工事は12月に集中するため、1月は仕事少なめ。畳縁販売も不調(畳)」、「民間の工事発注件数が減り仕事量が減少(塗装工事)」、「今は年度末に向けた発注が多いが、来年度が気になる(土木工事)」、「マスク、消毒剤、医療用手袋等の業界がコロナの異常過熱にどう対処したのか聞きたい(一般土木建築工事)」、「人材不足が大きく影響。雨や雪で従業員が休み、仕事が行き詰ることも(とび)」、「コロナで、室内のリフォーム工事が激減(職別工事)」、「緊急事態宣言発出により、仕事がつらい環境。見通し立たず(一般土木建築工事)」などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「コロナの影響で、医療品容器の顧客の海外工場は人員が集まらず、生産停滞の情報入手。よって弊社の受注量も激減し、売上は上がらず(プラスチック加工)」、「プラスチック原料が値上がり、一部商品が少し減益(プラスチック成型)」、「定期昇給の見送り、パートの勤務時減、電力の見直し等、経費削減を実施してきたが売上高は下方修正するばかり。今は教育に時間を割こうと従業員を様々なセミナーに参加させている。2、3月は障害者雇用の企業内型ジョブコーチ研修を受講し、在職中の障害者がより良い状況で仕事ができるようにしたい(金属製品)」、「業務用酒類製品の出荷量が激減。2月は製造ゼロというラインもあり、今後の見通しは非常に厳しい状況。製造減少をチャンスと捉え、普段できない整備や業務改善、他業務の習熟を行いたい(酒類)」、「現場施工広告はデジタル化によりビジネス転換がやむを得ない(印刷)」、「緊急事態宣言後、観光人が減少し主力製品の売上減(鉄鋼)」、「材料メーカーは売上確保のため材料を値上げしたが、弊社は顧客単価を上げられず、粗利が減少(金属製品)」、「道路関係の公共事業の動きが鈍い。また、役所関係への営業活動が満足にできなかった。コロナ前から人材募集していたが、申込がない(化学工業)」、「寒波による冬季需要は増加するも、全体的に停滞ムード。例年の年度末のような需要増加もなく、2度目の緊急事態宣言発出や長引くコロナ禍により、今後は売上減少が懸念される(自動車付属品)」などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「従業員のメンタルケアに取り組みたい(建築材料卸売)」、「緊急事態宣言発出後、客数激減で売上は昨年比▲80%。人は出ているが買い物や飲食なし(時計・眼鏡・光学機械小売)」、「飲食店や居酒屋が20時閉店の為、20時前後から食品売場が混雑。食品の買いためはほぼなし。衣料品売上は昨年の60%で肌着消耗品でも70%(大型小売店)」、「飲食店、一般顧客向けの販売は不調。量販店向け商品の販売量は堅調だが、利益をとれる商品が少なく採算ベースでは厳しい(農畜産物・水産物卸売)」、「飲食店や営業時間に関わらず、多くの業種に支援金対応をしてほしい(各種商品小売)」、「緊急事態宣言でカフェを休業(洋菓子店)」、「売上減少するも小売業には支援が無く厳しい(洋菓子店)」、「正月で入館者数、売上も1年で一番多い月だが、ここ半年は低水準で安定。今後はワクチン接種の効果に期待(公衆浴場)」、「外部委託していた各業務を当社従業員の配置転換により内製化し、雇用を確保(百貨店)」などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「資金繰りや相続税支払に充てるための物件買取依頼が増加。建売業者の土地需要も旺盛。個人の購入問い合わせは減少(不動産管理)」、「1月は新年度の生徒募集広告を出す予定が、緊急事態宣言発出で急遽延期。募集の遅れによる影響が不透明(学習塾)」、「生活様式の変化に伴いビジネスモデルが変化。短期・長期の視点が必要(広告)」、「今月は多少業績が上向きになった。新たな販路、商品の売上が少しずつ身になっている(広告代理)」、「緊急事態宣言により、1月は売上高が前年比大幅減少。宣言延長を受けて2月の減少も避けられない(日本料理)」などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
8月	▲53.8	▲42.1	▲75.0	▲55.5	▲29.4
9月	▲43.5	▲25.0	▲66.6	▲53.5	▲11.7
10月	▲34.0	▲12.5	▲62.9	▲32.2	▲15.0
11月	▲46.6	▲21.0	▲69.5	▲50.0	▲38.8
12月	▲46.7	▲11.1	▲66.6	▲59.3	▲33.3
1月	▲54.9	▲42.8	▲72.0	▲57.1	▲41.1
見通し	▲37.3	▲14.2	▲52.0	▲57.1	▲11.7

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 45.0	▲ 38.4	▲ 45.0	▲ 36.2	▲ 20.8	▲ 19.7	△ 2.1	△ 1.0
建設	▲ 52.3	▲ 42.8	▲ 47.6	▲ 38.0	▲ 14.2	▲ 19.0	△ 28.5	△ 23.8
製造	▲ 60.0	▲ 48.0	▲ 60.0	▲ 48.0	▲ 24.0	▲ 20.0	▲ 36.0	▲ 32.0
卸・小売	▲ 42.8	▲ 53.5	▲ 60.7	▲ 46.4	▲ 32.1	▲ 32.1	△ 14.2	△ 7.1
サービス	▲ 17.6	△ 5.8	△ 5.8	±0.0	▲ 5.8	±0.0	△ 5.8	△ 11.7

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 54.9	▲ 37.3	▲ 24.1	▲ 25.2
建設	▲ 42.8	▲ 14.2	▲ 14.2	▲ 19.0
製造	▲ 72.0	▲ 52.0	▲ 52.0	▲ 36.0
卸・小売	▲ 57.1	▲ 57.1	▲ 21.4	▲ 28.5
サービス	▲ 41.1	▲ 11.7	±0.0	▲ 11.7

令和3年1月CCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲54.9に対し、「CCI-LOBO」が▲49.5で柏の方がマイナス幅が5.4ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業であり、建設業、製造業は10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲45.0に対し、「CCI-LOBO」が▲48.2で柏の方がマイナス幅が3.2ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業、製造業であり、10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲45.0に対し、「CCI-LOBO」が▲46.1で柏の方がマイナス幅が1.1ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業、製造業、卸小売業であり、10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲20.8に対し、「CCI-LOBO」が▲18.6で柏の方がマイナス幅が2.2ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業であり、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業であり、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△2.1に対し、「CCI-LOBO」が△3.9で柏の方がプラス幅が1.8ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は建設業、卸小売業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業であり、10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲24.1に対し、「CCI-LOBO」が▲24.6で柏の方がマイナス幅が0.5ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業であり、製造業は10ポイント以上悪い。

【令和3年1月業種別業界内トピックス】

業種別	概 況	トピック	業種
建設業	例年通り12月に畳工事が集中する関係上、1月は仕事が少なめ。人が動かないためか、畳縁販売も不調。	売上減少	畳工事請負・畳製造販売業
	民間の工事発注件数の減少に伴い、ここにきて仕事量は減少傾向。どの業界もコロナの影響を受けているのは間違いない。できることをコツコツやるしかないのが現状である。	民間の工事発注数減少	塗装工事業
	今は年度末に向けた発注が多いが、来年度の状況が気になる。	先行き不透明	土木工事業
	マスク業界や、手指消毒液、ハンドソープ材、体温計、医療用手袋などの業界が、コロナの異常過熱にどう対処したのかぜひ聞いてみたい。社会的責任を最優先とし、需要優先の増産に踏み切った会社もあったのかもしれない。私達も、社会的責任に照らし合わせた経営をする必要があると思った。	コロナ需要の対応	一般土木建築工事業
	人材不足で仕事が回らないことがある。	人材不足	とび
	新型コロナウイルスの影響で、室内のリフォーム工事が激減。	室内リフォーム減少	職別工事業
	緊急事態宣言が発出され、仕事がしづらい環境となった。今後の見通しが立たない。	先行き不透明	一般土木建築工事業
製造業	新型コロナウイルスの影響で、医療品容器の顧客の海外工場は人員が集まらず、生産が停滞していると。よって弊社の受注量も激減し、売上は上がらない。	海外工場の人材不足による生産停滞	プラスチック加工
	12月～1月はプラスチック原料が値上がり、一部商品が少し減益。	プラスチック原料値上げ	プラスチック成型
	定期昇給の見送り、パート職の勤務時間削減、電力見直し等できる限りの費用削減を実施してきたが、売上高は下方修正するばかり。退職者がでても補充せず、今いる人間で作業を続けている。この時期こそ教育に時間を割こうと、健康づくりセミナー(無料)でタバコやアルコールの影響について全従業員で学び、2月はメンタルヘルスセミナー(無料)、ISO9001講習を予定。2月、3月は障害者雇用の企業在籍型ジョブコーチ研修を受講し、在職している障害者がより良い状況で仕事ができるようにしていく。	経費削減 人材教育	金属製品
	雇用調整助成金(一時帰休)申請を受けている。	雇用調整助成金	織物業
	緊急事態宣言発出により業務用製品(酒類)の出荷量が激減している。2月は製造ゼロという製造ラインもあり、今後も非常に厳しい見通し。しかし従前通りの人員のため、製造減少をチャンスと捉え、普段できない整備や業務改善、他職場の習熟を行っていきたいと考えている。	業務用酒類の出荷数激減 職場環境の見直し	酒類製造業
	とにかく先読みが非常に難しい状況。注文残があったため、売上は昨年比増加。	注文残による売上増加	プラスチック製品製造業
	厳しい時代こそ、お客様が必要とする価値ある製品を提供するといった、企業努力が求められているのではないか。	企業努力	印刷業
	外出自粛による影響は大きい。特に現場施工広告は、デジタル化により転向を余儀なくされる。	デジタル化による業務転換	印刷業
	管理部門は在宅勤務を6割(週3日)実施し、時差出勤(半在宅)を奨励。臨時的に公共交通機関ではなく車両通勤を認める。緊急事態宣言後、観光人の減少により、主力製品の売上が減少している。	在宅勤務の実施 観光人減少による売上減少	鉄鋼業
	コロナの影響で、材料メーカーが売上確保のため値上げをしている。弊社は、顧客単価を上げる事ができず、粗利が減って厳しい状況。	材料の値上げによる採算減少	金属製品製造業
	新型コロナウイルスの影響が、公共事業(道路関係)の動きが鈍い。また春先から秋口まで、役所関係への営業活動が満足にできなかった。コロナ前から人材募集をすすめていたが、なかなか申込がない。	公共事業の動き鈍い 営業活動の停滞 人材募集	化学工業
	今期は、寒波による冬季需要は増えているが、全体的に停滞ムード。2度目の緊急事態宣言の発出や長引くコロナ禍により、今後は売上の減少が懸念される。	冬季需要増加 先行き売上減少を懸念	自動車付属品製造業
卸小売業	従業員のメンタルケアに取り組んでいきたい。	従業員のメンタルケア	建築材料卸売業
	緊急事態宣言がまた発出され、スーパーマーケット業界にとってはよいが、喜ぶべきことではない。	緊急事態宣言発出による需要	各種食料品小売業
	緊急事態宣言発出により客数激減。1月20日までの売上昨年比▲80%、市内の人手はあるが、買い物・飲食は無い様子。	売上減少	時計・眼鏡・光学機械小売業
	緊急事態宣言により飲食店や居酒屋が20時閉店のため、20時前後から食品売場が混雑。食品は品薄感もないので、買いだめする方はほとんどいない。衣料関連は依然厳しく売上は昨年の60%。肌着消耗品でも70%。	食料品売上好調 買いだめの傾向なし 衣料品売上不調	大型小売店
	12/31の新型コロナウイルス感染者発表から始まり、その後の緊急事態宣言発出に伴い、施設の入館客数及び売上が大きく減少している。	入館者数、売上減少	各種商品小売業
	緊急事態宣言の発出によって、飲食店、一般顧客向けの販売は調子が悪かった。昨年に引き続き量販店向けの商品の販売量は堅調だが、利益をとれる商品が少ないため採算ベースでは厳しい状況が続いている。	飲食店、一般顧客向け販売不調 量販店卸売好調	農畜産物・水産物卸売業
	外出自粛が要請されているため、飲食店や営業時間に関わらず、多くの業種に支援金の対応をしてほしい。	支援金の要請	各種商品小売業
	緊急事態宣言で、お食事等カフェを休業中。	カフェ休業	洋菓子店
	緊急事態宣言が出てから売上減！小売業には支援が無いし厳しい状況。	売上減少	洋菓子店
	通常1月は正月ということで入館者数、売上金額が年間で1番多いが、ここ6か月間は、低水準(前年比55%～65%)で安定してしまった。この先は、ワクチン接種の効果に期待している。	入館者数、売上低調 ワクチンに期待	公衆浴場業
	新型コロナウイルスによる影響が大きく、外部委託していた各業務(アルバイト従事業務を含む)を当社従業員の配置転換により内製化し、雇用を確保する。	外部委託業務の内製化	百貨店
	本年度は人モノ全てに対して不足していた。来年度の事業計画を慎重につくる事が大事。	来年度の事業計画	ソフトウェア業

【令和3年1月業種別業界内トピックス】

サービス業	物件の買取依頼が増えている。資金繰りや相続税の支払いに充てるための売却である。建売業者から土地需要も旺盛。外出自粛要請が影響し、個人の購入問い合わせは減少。しばらくはコロナの終息を待つしかない。	物件買取依頼増加 建売業者の土地需要	不動産管理業
	1月に新年度の生徒募集の広告を出す予定だったが、緊急事態宣言が発出されたため、急遽延期とせざるを得なかった。例年より1か月遅れて募集をかけることになるため、広告に対する反応や新規入会にどれだけ影響が出るか不透明である。	生徒募集広告の延期による影響	学習塾
	間接的にはあるが、新型コロナウイルスの影響が出始めた。たまたま消費のシフトで好業種があるようにみえるが、長期的には中小企業は間違いなく悪くなると思う。	新型コロナウイルスの影響	税理士
	人の生活様式の変化に伴い、ビジネスモデルが変化している。長期・短期の視点で日々の業務をこなしていく必要がある。	ビジネスモデルの変化	広告業
	今月は多少業績が上向きになった。コロナの影響はまだ暫く続くが、新たな販路、商品における売上が少しづつ身になっている。業界としてはまだ厳しい。2月以降は昨年のコロナの状況ほど経済がストップしていないので、売上は上がりそうだが根本解決にはなっていない。	新たな販路、商品売上増加	広告代理業
	緊急事態宣言により、1月は売上高が前年大幅減少。2月も緊急事態宣言延長を受けて減少は避けられない見通し。	売上大幅減少	日本料理

令和3年1月の木の景気天気図

木の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 54.9	 ▲ 42.8	 ▲ 72.0	 ▲ 57.1	 ▲ 41.1
CCI—LOBO	 ▲ 49.5	 ▲ 27.1	 ▲ 48.5	 ▲ 49.5	 ▲ 64.7

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 45.0	 ▲ 52.3	 ▲ 60.0	 ▲ 42.8	 ▲ 17.6
CCI—LOBO	 ▲ 48.2	 ▲ 23.6	 ▲ 46.8	 ▲ 45.7	 ▲ 67.4

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 45.0	 ▲ 47.6	 ▲ 60.0	 ▲ 60.7	 5.8
CCI—LOBO	 ▲ 46.1	 ▲ 27.9	 ▲ 44.1	 ▲ 42.8	 ▲ 63.5

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 20.8	 ▲ 14.2	 ▲ 24.0	 ▲ 32.1	 ▲ 5.8
CCI—LOBO	 ▲ 18.6	 ▲ 25.6	 ▲ 19.1	 ▲ 16.9	 ▲ 13.3

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 2.1	 28.5	 ▲ 36.0	 14.2	 5.8
CCI—LOBO	 3.9	 23.6	 ▲ 5.0	 7.7	 ▲ 2.1

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 24.1	 ▲ 14.2	 ▲ 52.0	 ▲ 21.4	 ±0.0
CCI—LOBO	 ▲ 24.6	 ▲ 7.1	 ▲ 20.8	 ▲ 26.4	 ▲ 41.3

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測 (1月速報)

調査期間：2021年1月14日～20日

調査対象：全国の337商工会議所が2,760企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、緊急事態宣言再発令の影響により悪化。先行きも懸念拭えず、厳しい見方が広がる

1月の全産業合計の業況DIは、▲49.5と、前月から▲3.4ポイントの悪化。企業のデジタル投資や5G向けの需要増を背景に受注が伸びている電子部品関連や、中国・米国向けの輸出が増加している自動車関連が好調なほか、巣ごもり需要に下支えされた飲食料品関連の製造業が堅調に推移した。一方、新型コロナウイルス感染再拡大の影響から、1都府県における緊急事態宣言の再発令やG・T・Oキャンペーンの一時停止により、客足が減少した飲食・宿泊業や小売業では業況感が悪化した。売上低迷に直面している外食産業を中心に、需要回復を見通せない中、先行き不透明感を指摘する声が多く、中小企業の景況感には弱さが見られる。

先行きについては、先行き見通しDIが▲49.4（今月比+0.1ポイント）と改

善を見込む。自動車や電子部品関連の製造業による下支えのほか、ネット販売の強化や巣ごもり需要に対応した商品開発による売上回復への期待感がうかがえる。一方、消費者マインドの低下に加え、雇用調整助成金の特例措置など政策効果剥落後の資金繰り悪化への懸念もあり、中小企業においては先行きへの不透明感が一段と増しており、厳しい見方が広がっている。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

業種別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、卸売業、小売業、サービス業で悪化、建設業は横ばい、製造業は改善した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「新型コロナウイルスの影響により、業績悪化となった主要取引先からの受注が減少し、売上に打撃を与えている。また、新型コロナウイルス感染拡大前に

比べ発注側のコスト削減の意識が強まり、厳しい価格競争を強いられることが多くなっており、採算確保が今後の懸念材料となっている」（電気通信工事業）、「新型コロナウイルスの影響により、設備投資を抑制あるいは先送りする取引先が多く、民間工事は売上改善が見込めない状況。一方、公共工事は補正予算に基づくインフラ関係の土木工事の発注増加に期待している」（一般工事業）

【製造業】「G・T・Oトラベルの停止により観光地向けの受注が激減。売上が好調な海外向けとネット通販の販促を強化し、採算確保に努めた」（酒類製造業）、「昨年から今年にかけて半導体関連製品の受注が伸び、売上が増加した。ただし受注の大半は中国向けであり、欧米向けの受注は安定していないため、先行きの不透明感は否めない」（計量器測定器等製造業）

【卸売業】「新型コロナウイルス感染再拡大により、海外出張ができず、現地での木材の品質確認ができないため、輸入している建築用資材・D

IY用資材の仕入に影響が出ている」（建築材料卸売業）、「内食需要により、冷凍食品などスーパーや量販店向けの売上が好調。一方で、飲食店向けなど業務用食材の売上は厳しく、取引先によって売上が大きく異なる状況」（農畜水産物卸売業）

【小売業】「1月2日から初売りを行ったが、来店客数は前年同月比4割以上の減少となり、売上も大幅に悪化。新型コロナウイルス感染再拡大に伴い、主要顧客である年配層が外出を控えており、当面は服飾雑貨などの販売不振は続く見込み」（百貨店）、「年末年始の帰省自粛や外出を控える動きが強まっており、帰省客用の土産品や贈答品の売上が過去最悪となった」（菓子小売業）

【サービス業】「年末年始は出前やテイクアウトが増加したことから売上を確保できたものの、新年会等の宴会を控える動きは当分続く見込みであり、今後の経営が見通せず、先行きが不安」（飲食店）、「年末までの予約はG・T・Oトラベルの恩恵を受け、売上が回復していたものの、同事業の一時

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
8月	▲59.0	▲34.9	▲69.6	▲56.7	▲53.2	▲70.2
9月	▲56.5	▲30.7	▲68.3	▲51.2	▲52.5	▲67.8
10月	▲50.2	▲25.8	▲63.9	▲47.8	▲45.3	▲57.2
11月	▲45.8	▲26.8	▲54.1	▲39.0	▲41.5	▲56.1
12月	▲46.1	▲26.9	▲53.4	▲45.3	▲45.5	▲53.0
1月	▲49.5	▲27.1	▲48.5	▲49.0	▲49.5	▲64.7
見通し	▲49.4	▲35.3	▲44.3	▲47.3	▲53.8	▲60.5

停止により1月以降のキャンセルが増加。特に、年末年始の客数は例年の3割程度まで落ち込んだ」（宿泊業）

柏の景気情報 (令和3年1月の調査結果のポイント)

★調査結果のまとめ

調査期間：令和3年1月26日～令和3年2月5日 調査対象：柏市内130事業所及び組合にヒアリング、回答数91

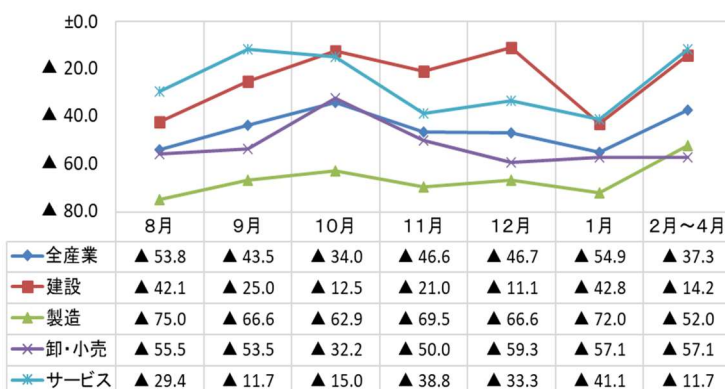
全産業DIは2か月連続で悪化。緊急事態宣言期間延長により厳しい状況が続く見通し

1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲54.9(前月水準▲46.7)となり、マイナス幅が8.2ポイント拡大した。

緊急事態宣言の再発出により、全産業DIは悪化。巣ごもり需要に支えられ食料品の好調は続いているが、外出自粛の要請、飲食店の時短営業等により、商業施設は来店客数減少、業務用酒類出荷数は激減とのコメントが寄せられた。また、大きくDI値を下げた建設業から室内リフォーム工事の減少、民間の工事発注数の減少について、DI値が最も低い製造業から原材料値上げによる利益減少、人手不足等のコメントが寄せられた。

先行きは▲37.3(今月比+17.6)であるが、緊急事態宣言が延長され、厳しい状況が続く見通しである。

柏の景気情報・産業別業況DI



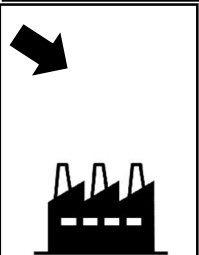
★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



建設業

「昼工事は12月に集中するため、1月は仕事少なめ。昼縁販売も不調(昼)」、「民間の工事発注件数が減り仕事量が減少」(塗装工事)、「今は年度末に向けた発注が多いが、来年度が気になる」(土木工事)、「マスク、消毒剤、医療用手袋等の業界がコロナの異常過熱にどう対処したのか聞きたい」(一般土木建築工事)、「人材不足が大きく影響。雨や雪で従業員が休み、仕事が行き詰ることも」(とび)、「コロナで、室内のリフォーム工事が激減」(職別工事)、「緊急事態宣言発出により、仕事がしづらい環境。見通し立たず」(一般土木建築工事)



製造業

「コロナの影響で、医療品容器の顧客の海外工場は人員が集まらず、生産停滞の情報入手。よって弊社の受注量も激減し、売上は上がらず」(プラスチック加工)、「プラスチック原料が値上がり、一部商品が少し減益」(プラスチック成型)、「定期昇給の見送り、パートの勤務時減、電力の見直し等、経費削減を実施してきたが売上高は下方修正するばかり。今は教育に時間を割こうと従業員を様々なセミナーに参加させている。2、3月は障害者雇用の企業在籍型ジョブコーチ研修を受講し、在職中の障害者がより良い状況で仕事ができるようにしたい」(金属製品)、「業務用酒類製品の出荷量が激減。2月は製造ゼロというラインもあり、今後の見通しは非常に厳しい状況。製造減少をチャンスと捉え、普段できない整備や業務改善、他業務の習熟を行いたい」(酒類)、「現場施工広告はデジタル化によりビジネス転換がやむを得ない」(印刷)、「緊急事態宣言後、観光人が減少し主力製品の売上減」(鉄鋼)、「材料メーカーは売上確保のため材料を値上げしたが、弊社は顧客単価を上げられず、粗利が減少」(金属製品)、「道路関係の公共事業の動きが鈍い。また、役所関係への営業活動が満足にできなかった。コロナ前から人材募集していたが、申込がない」(化学工業)、「寒波による冬季需要は増加するも、全体的に停滞ムード。例年の年度末のような需要増加もなく、2度目の緊急事態宣言発出や長引くコロナ禍により、今後は売上減少が懸念される」(自動車付属品)



卸・小売業

「従業員のメンタルケアに取り組みたい」(建築材料卸売)、「緊急事態宣言発出後、客数激減で売上は昨年比▲80%。人は出ているが買い物や飲食なし」(時計・眼鏡・光学機械小売)、「飲食店や居酒屋が20時閉店の為、20時前後から食品売場が混雑。食品の買いだめはほぼなし。衣料品売上は昨年の60%で肌着消耗品でも70%」(大型小売店)、「飲食店、一般顧客向けの販売は不調。量販店向け商品の販売量は堅調だが、利益をとれる商品が少なく採算ベースでは厳しい」(農畜産物・水産物卸売)、「飲食店や営業時間に関わらず、多くの業種に支援金対応をしてほしい」(各種商品小売)、「緊急事態宣言でカフェを休業」(洋菓子店)、「売上減少するも小売業には支援が無く厳しい」(洋菓子店)、「正月で入館者数、売上も1年で一番多い月だが、ここ半年は低水準で安定。今後はワクチン接種の効果に期待」(公衆浴場)、「外部委託していた各業務を当社従業員の配置転換により内製化し、雇用を確保」(百貨店)



サービス業

「資金繰りや相続税支払に充てるための物件買取依頼が増加。建売業者の土地需要も旺盛。個人の購入問い合わせは減少」(不動産管理)、「1月は新年度の生徒募集広告を出す予定が、緊急事態宣言発出で急遽延期。募集の遅れによる影響が不透明」(学習塾)、「生活様式の変化に伴いビジネスモデルが変化。短期・長期の視点が必要」(広告)、「今月は多少業績が上向きになった。新たな販路、商品の売上が少しずつ身になっている」(広告代理)、「緊急事態宣言により、1月は売上高が前年比大幅減少。宣言延長を受けて2月の減少も避けられない」(日本料理)

★全国の商工会議所早期景気観測調査(CCI-LOBO)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲54.9に対し、「CCI-LOBO」が▲49.5で柏の方がマイナス幅が5.4ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業であり、建設業、製造業は10ポイント以上悪い。